

サステナビリティ課題へのアプローチ

ジャムコグループは航空機内装品製造、航空機器製造、航空機整備の各事業分野において、快適で安心安全な空の旅に貢献しています。また地球環境をはじめとしたさまざまなサステナビリティ課題の解決にも取り組んでいます。

サステナビリティ経営の推進

「自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。」
これは当社の経営理念の一節です。その実現に向けて、2022年に「サステナビリティ基本方針」を定め、社業を通じて社会に貢献すべくサステナビリティ経営を推進してきました。

ジャムコグループではこれからも、ステークホルダーとの信頼関係を重視しながら、豊かで持続可能な社会づくりに取り組んでいきます。

サステナビリティマネジメント

2021年8月、ジャムコグループは、課題解決に向けた取組みを一層強化するため、「サステナビリティ推進ボード（Sustainability Promotion Board：以下SPB）を設置しました。

SPBは、経営層によるサステナビリティに関する内部統制組織と位置付け、社長を議長にサステナビリティ推進、業務統括、経理財務をそれぞれ担当する執行役員で構成しています。SPBでは、当社のビジョンや経営戦略に影響を及ぼすようなサステナビリティに関する重要な方針の決定および重要課題（マテリアリティ）の特定、ならびにこれらに関する施策や重要事項を決定するとともに、サステナビリティ活動全体の実効性の監視、監督を行なっています。また、その決定事項や活動状況については、適時、取締役会に報告しています。

SPBでは、2050年に向けたカーボンニュートラルをはじめとした環境課題への対応はもとより、ESG（環境・社会・ガバナンス）、SDGs（持続可能な開発目標）を踏まえた中長期的な視点でサステナビリティへの取組みを推進しています。

サステナビリティ基本方針

ジャムコグループは、自然との共生をはかり、企業活動を通じて人々の幸せと豊かな社会づくりを追求し、世界の持続的な発展に貢献していきます。

- グローバル社会が直面する地球環境問題をはじめとしたさまざまな課題に挑戦します。
- 地球温暖化の問題を喫緊の課題と認識し、あらゆる環境負荷低減施策に取り組めます。
- 事業環境の変化を新たな成長の機会と捉え、より安全で安心な製品・サービスの提供を通じて持続可能な社会づくりと企業価値の向上を目指します。

サステナビリティ活動の推進体制

本社機構にサステナビリティ推進部を置き、同部はSPB事務局として、グループのサステナビリティ全体の取組みを統括するとともに、SPBの方針に沿ってマテリアリティ等の実務対応をするワーキング・グループの活動を主導して、気候変動課題への取組みを含めた活動を推進しています。サステナビリティ推進担当執行役員は、これらの活動状況を定期的に取り締り会へ報告しています。

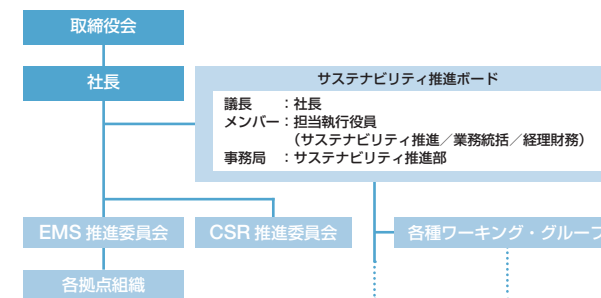
EMS 推進委員会

EMS 推進委員会は、社内規程およびISO14001 環境マネジメントシステムに則した環境保全活動を推進する組織です。

サステナビリティ推進担当執行役員（環境統括責任者）を委員長にサステナビリティ推進部にEMS 推進委員会事務局を置き、各事業部長およびサステナビリティ推進部長（ともに、環境管理責任者）ならびに各職場のエコリーダーを委員として構成しています。

CSR 推進委員会

CSR 推進委員会は、ISO26000 中核主題等の社会的な課題全般に対応するためのCSR活動を推進する組織です。サステナビリティ推進担当執行役員を委員長にサステナビリティ推進部にCSR 推進委員会事務局を置き、それぞれの社会課題を主管する事業部および本社各部門を代表する委員で構成しています。



担当役員メッセージ



木村 敏和

取締役 副社長執行役員
サステナビリティ推進担当

カーボンニュートラルへの取組み

マテリアリティとして特定されている「カーボンニュートラルへの取組み」については、温室効果ガス（GHG）排出量の算定と削減を推進しました。算定は当社ならびに国内グループ会社について、Scope3までの把握が完了しました。各拠点における自発的な管理と算定業務の負荷軽減のため新たにシステムを導入したことなどで、効率化のみならずデータの精度も向上しました。これらの取組みの結果、2023年度の温室効果ガス排出量（Scope1、2）について、第三者機関による保証を取得しました。算定精度のさらなる向上や海外拠点の算定範囲拡大など、今後も継続的な改善に努めます。

また、GHGの排出削減に向けて、一部の拠点では太陽光発電による再生可能エネルギー生成設備の導入準備を進めており、今後は対象拠点を広げる予定です。

社会分野における取組み

当社の人権方針に基づく人権デュー・ディリジェンスの実施をサステナビリティ推進ボード（SPB）にて決定、開始しました。2023年度は第1フェーズとして、当社グループ海外拠点における地政学リスクや現地法規制、当社の使用する原材料等を分析し、注視・改善が必要な分野を特定しました。2024年度は対象拠点の拡大、リスクアセスメントの実施等へと移行し、必要な是正措置の実行へとつなげる予定です。

また、航空業界における人財の確保・育成は重要課題となっており、人的資本への対応は喫緊の課題と認識しています。これまで、厚生労

働大臣が認定する「くるみん認定」に取り組んできましたが、2024年度の初めに取得することができました。「くるみん認定」は、次世代育成支援対策推進法に基づき、一般事業主行動計画を策定した企業のうち計画に定めた目標を達成し、一定の基準を満たした企業を「子育てサポート企業」として認定するものです。

加えて、健康経営の一環として2023年度より、指定医療機関における社員の人間ドック受診費用を全額会社負担としました。

エンゲージメント向上の取組み

取引先（委託先）向けCSRアンケート調査を定期的を実施しており、2023年度はこれに加えて会社訪問および意見交換を行ないました。サステナビリティに関する認識や課題の共有が進み、アンケートのスコアも着実に伸長しています。当社としても今後の対話充実化に資する有益な取組みになったと考えています。

マテリアリティへの対応

昨年度末に特定した7項目のマテリアリティ（重要課題）に対して、2023年度はその具体的な解決に向けて、事業部および本社において取組体制を構築しました。また、カーボンニュートラル、資源循環、人的資本経営に係るマテリアリティに対して焦点を当て、各部門がマテリアリティにどのようにかかわっているのか、今後どのように取り組んでいくのかなど、現状分析と対応の方向性などについて深掘りをするプロジェクトを立ち上げて推進しました。

快適で持続可能な社会への貢献を目指して

ジャムコグループは2022年度にマテリアリティを特定し、事業活動を通じてその解決に取り組んでいます。また、グループの事業活動の根幹となる研究開発についても、継続して充実を図っています。これらはJAMCO Vision 2030にて掲げる「価値創造企業グループ」の実現を目的としたものであり、かつグループが創業以来提供してきた「快適移動空間」「価値ある環境性能」「安全運航環境」の3つの価値を今後も継続して最大化するための取組みでもあります。

今後さらに3つの価値の最大化を目指してサステナビリティ活動・事業活動を推進し、「価値創造企業グループ」として持続可能な社会づくりに貢献し続けることを目指します。

《マテリアリティの解決》

- ・カーボンニュートラルへの取組み
- ・資源循環への取組み強化
- ・あんしん、快適な移動空間の実現
- ・サプライチェーンにおける関係者との信頼関係強化
- ・生き生きとした職場づくり
- ・社会・地域への貢献
- ・組織のレジリエンスの強化

《選択と集中》

- ・内装品事業の深化
- ・シート事業の抜本的な見直し
- ・整備事業と機器製造事業における融合と成長

収益力向上
・
財務基盤
強化

《研究開発の充実》

- ・技術イノベーションセンター
- ・Innovation Road Map 2050

競争優位性

JAMCO
Vision
2030

快適移動空間
価値ある環境性能
安全運航環境

を提供する

価値創造企業グループ



マテリアリティ (重要課題)

マテリアリティは、当社グループが目指す将来の社会像に向けて、JAMCO Vision 2030およびアクションプラン（行動計画AP2030）との整合性をもって特定しました。JAMCO Vision 2030の実現に寄与すべく、マテリアリティの目標およびKPIは、経営計画とも連動させた設定としています。

マテリアリティ特定プロセス

ジャムコグループでは下記の3つのステップを経て、さまざまなサステナビリティ課題のなかからマテリアリティの特定を行ないました。

STEP1 候補となる課題の抽出

- 国際ガイドライン（GRIスタンダード、SASB）やSDGs、ESG評価機関の評価項目などをベースに自社の事業活動での課題やお客様およびサプライチェーンパートナーとの取り組み課題を整理し、候補となる課題を抽出しました

STEP2 課題の評価

- 「STEP1」で抽出・整理した課題について、ステークホルダーおよび自社の視点で評価しました
- ステークホルダーからの視点では日々の事業活動における対話を重視して評価しました
- 自社の視点では、目指すべきビジョンとそれを実現するために重要な課題を重視して評価しました

STEP3 マテリアリティの特定

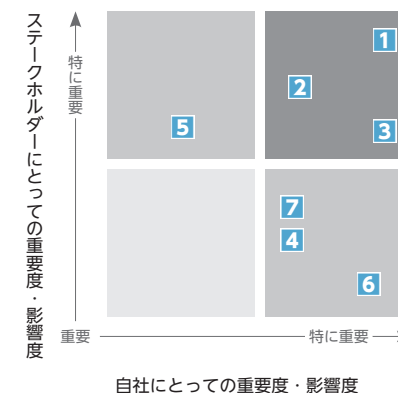
- 「STEP2」で実施した評価結果に基づき、事業部門と本社部門で構成されたワーキング・グループや、専門家との検討を通じて案を作成し、サステナビリティ推進ボードでの協議を経て決定、取締役会へ報告しました

特定したマテリアリティ

価値創造に関連するマテリアリティとして、下記7項目を特定しました。

- | | |
|---|----------------------------------|
| E | 1：カーボンニュートラルへの取組み |
| S | 2：資源循環への取組み強化 |
| S | 3：あんしん、快適な移動空間の実現 |
| S | 4：サプライチェーンにおける関係者との信頼関係強化 |
| S | 5：生き生きとした職場づくり |
| G | 6：社会・地域への貢献 |
| G | 7：組織のレジリエンスの強化 |

マテリアリティマトリックス



マテリアリティへの取組み

2023年度は、カーボンニュートラル（1）と資源循環（2）について、現状把握・課題抽出を進め、全社共通理解のもと全社目標・方針、事業部での施策等について協議しました。また、生き生きとした職場づくり（5）では人的資本経営として必要な施策、目指す姿、KPIの検討を進めました。

マテリアリティ		貢献するSDGs	2030年に目指すべき姿	マテリアリティ解決のための方針・施策
1 カarbonニュートラルへの取組み	a. 技術開発を通じたカーボンニュートラルへの取組み		<ul style="list-style-type: none"> ● 気候変動について想定されたリスクが回避され、機会となるビジネスに参入できている ● CO₂ 排出量削減目標が達成されている <p>CO₂ 排出量削減目標 (2023年公表)</p> <p>当社グループは、2050年までにカーボンニュートラルの実現を目指します。</p> <p>2030年目標 グループ全体の Scope1 と Scope2 の合計を、2019年度を基準として50%以上削減することを目標とする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 当社製品のCO₂ 排出量削減の取組み（カーボンフットプリント、自然由来の素材、材料、部品の活用など） ② 当社製品の軽量化による機体の燃費効率の改善 ③ 他業種への軽量化技術などの提供 ④ 関連するコンソーシアムへの参加、業界全体の活動への貢献
	b. 生産効率向上などによるGHG 排出削減、再生可能エネルギーの積極的導入			
2 資源循環への取組み強化			<ul style="list-style-type: none"> ● 「技術力と品質」をさらに磨き、「経験と知識」を融合し進化させ、サーキュラーエコノミーへの移行に向けて廃棄ロスの削減、資源の循環を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ① リサイクル原料の調達先の開拓と積極的な活用 ② 廃棄段階におけるリサイクル率向上 ③ 工場やオフィスの廃棄物削減
3 あんしん、快適な移動空間の実現			<ul style="list-style-type: none"> ● 進化・発展する航空宇宙分野において、また生まれてくる革新的な次世代モビリティにおいて、当社の提供した製品やサービスが、より多くの人々が安心して快適に移動できる社会の実現に貢献している 	<ul style="list-style-type: none"> ① 人に寄り添った空飛ぶ移動空間を実現するためのソリューションを提供 ② 空飛ぶ移動体験を“待ち”の時間から感動をもたらす時間へと変えるソリューションを提供 ③ 運航時の利便性の向上、環境負荷の軽減につながるソリューションを提供 ④ 次世代モビリティの社会基盤となるソリューションを提供
4 サプライチェーンにおける関係者との信頼関係強化			<ul style="list-style-type: none"> ● ジャムコの調達方針を十分に周知し、公正で健全なビジネス関係を築き、それぞれの国の文化や習慣を尊重し、サプライチェーンを通じた信頼関係を構築する 	<ul style="list-style-type: none"> ① 人権・社会・環境面のアセスメント及び協業関係強化 ② 製品・サービスにおけるライフサイクルでのGHG 排出量削減への共同取組み ③ 研究機関や素材メーカー、サプライチェーンパートナーとの新たな素材や工法に関する共同開発の推進
5 生き生きとした職場づくり	a. 新たな未来を切り拓く人財育成		<ul style="list-style-type: none"> ● 「誠実で社員を大事にする会社」であり続ける。国内・海外を問わず、グループ全体で、社員の成長を支え、社員一人ひとりが仕事への誇りと高い技術力を持って業務に取り組み、生き生きと働く事のできる職場環境を作る 	<ul style="list-style-type: none"> ① 新技術開発や新事業展開のためのイノベーション人財の育成と採用 ② 多様な価値観（ダイバーシティ）を尊重し新たな価値の創出につなげられる人財の育成 ③ 自律型（自ら考え、行動する）人財の育成
	b. 生き生きと働くための職場環境整備			
6 社会・地域への貢献			<ul style="list-style-type: none"> ● 良質な雇用環境の提供と社会貢献活動を通じてコミュニティの発展に貢献し、社会との信頼関係を構築する 	<ul style="list-style-type: none"> ① 良質な雇用環境の提供を通じた社会への貢献 ② 積極的な社会貢献活動による社会からの信頼感の醸成
7 組織のレジリエンス強化			<ul style="list-style-type: none"> ● 「技術のジャムコは、土魂の気概をもって」を基軸とする経営理念の下、顧客への製品・サービスの提供を通じて社会に貢献し、リスクマネジメントに取り組み、企業として永続する 	<ul style="list-style-type: none"> ① リスクマネジメント体制の強化 ② ガバナンスの継続的強化 ③ 情報開示の充実によるエンゲージメント強化



技術イノベーションセンター長
執行役員

板倉 潮

術の開発に専念できる環境整備」を進め、ジャムコの価値創造により貢献することが、当センター設立のねらいです。

組織体制と各キャンパスの役割

「技術イノベーションセンター」は3つのキャンパスグループで構成されています。第一キャンパスグループは、無限の可能性と終わりのない学びの場の提供を目的とし、技術のジャムコを担う人財の養成、育成などを体系的に行なう教育プログラムの運用・管理を行ないます。第二キャンパスグループは、原則として、Innovation Road Map 2050に基づいて、次世代製品向け要素技術の応用とアドバンスドデザインを担い、10年以内の製品化・商品化を目指して技術開発と実用化を推進します。第三キャンパスグループは、CFRPのリサイクルや宇宙関連など、現在すぐに商品化に結びつかないものの、次の世紀につながるような革新的技術開発にチャレンジしていきます。

第一キャンパスグループ～次世代を担う人財の育成

技術と資格のラーニングセンター（人財養成・育成・再教育・リスキリング、資格・認定取得支援、特殊技術スキルアップ）

技術部門に配属された新入社員のエントリー教育のほか、全社員を対象とした初級技術教育、航空安全・品質教育を行ないます。また、製品開発・設計・製造等に関する基本



的技術を学ぶ初級・中級・上級教育に加えその上のマイスタークラスまで、特定分野だけでなく幅広い経験と知識を持った、プロジェクトリーダーを務められるような技術者の育成にも注力します。

特集：技術イノベーションセンターの設立 ～未来を見据えたジャムコ価値創造の源泉～

設立の目的と活動内容

2024年4月、本社組織である「技術イノベーション統括部」の機能を拡大・強化し、新たに「技術イノベーションセンター」へと組織改編を行ないました。

当社のコア・コンピタンスは、航空機内装品事業を中心とした航空宇宙産業における優れた技術開発力にあります。従来は製品開発や設計の実務によるOJTが主流でしたが、少子化やベテラン技術者の退職とともに、設計の標準化と流用設計の拡大に伴う新規設計機会の減少により、長年培ってきた技術力という貴重な財産を若い世代に継承・発展させることが難しくなってきました。

そこで、「技術イノベーションセンター」では、従来の

技術開発の統括に加え、新たに全社横断的に「技術のジャムコ」にふさわしい技術者を体系的に育成する機能を持たせました。

一方、航空機における次世代技術とは、実用化が10年以上先になると見込まれるもので、製品化を見据えて事業部とは密接に連携しながらも、製品開発とは別の環境で研究に専念することで、より成果が期待できる領域も含まれます。そこでJAMCO Vision 2030に基づき策定されたInnovation Road Map 2050に沿って、製品化への道筋が見えている研究開発と同時に、さらにその先の次世代を見据えて、長期目線で革新的な技術開発にも取り組みます。

このように「エンジニアの体系的な教育」と「次世代技

さらに業務遂行に必要な国家資格、技術者認定、特殊技能者資格などの取得やリスキリングなどの支援を行なうことで、当社技術者としてのスキルレベルの底上げと向上に取り組めます。

第二キャンパスグループ～10年単位の製品開発

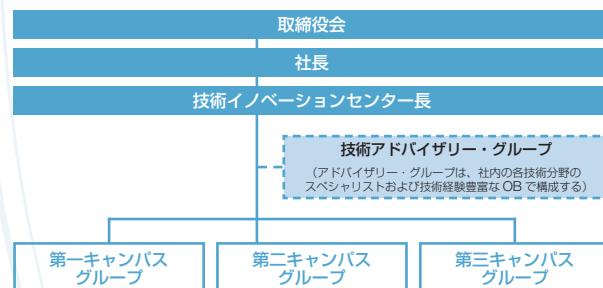
製品応用研究・製品開発研究・アドバンストデザイン（次世代製品向け要素技術の応用と開発、設計製造プロセス革新、ジャムコグループのブランド戦略を含むプロダクトデザイン）

Innovation Road Map 2050に従い、次世代製品向けに、顧客と市場ニーズを先取りする航空宇宙関連の技術開発と新技術の実用化を推進します。テーマとしては、航空業界でも重要な課題となっているサステナビリティ関連が中心で、JAXAと共同開発しているインクルーシブな「バリアフリートイレ（ラバトリー）」も第二キャンパスグループが担当しています。

第三キャンパスグループ～100年先を見据えた技術研究

革新技術研究（革新的技術開発へのチャレンジ）

2030年代半ばから本格化する複合材製航空機の退役を見据えた材料リサイクルや、次世代の客室サービスなどのサステナビリティに関連した研究のほか、現在の事業部ビジネス領域にはこだわらない新たな分野も含めて、次の時代を見据えた、まったく新しい革新的な技術開発を目指して活動しています。



Virtual Innovation Studio (VIS) の活用

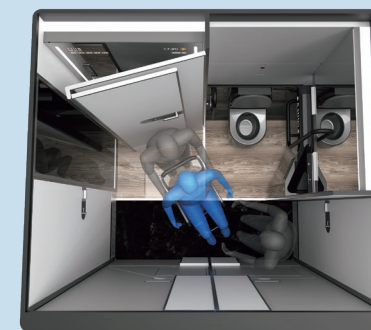
社内に Virtual Innovation Studio (VIS) が完成し、このほど運用を開始しました。VISは、正面、側面と下面のスクリーンに投影された映像を、専用のVRメガネを通して立体的に見ることで、その世界に入ったような没入感を体験できます。

航空機内部を歩きつつ、そこに置かれた当社のシートやラバトリー等の立体映像で、製品の配色や形状、質感などを実物に近い感覚で確認できます。従来のモックアップと比べコストが抑えられるとともに、例えばエアラインのイメージカラーに合わせて配色の変更が瞬時に行なえるなど、製品の仕上がりイメージを事前にお客さまと共有しやすくなり、納品前のミスコミュニケーション防止にも役立ちます。今後はさらにコンテンツを充実させ、お客さまとの商談やプレゼンテーションの場での活用のほか、社員教育への利用も計画しています。



JAXA とバリアフリーラバトリーを共同開発

2024年1月、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（以下、JAXA）は、当社との共同研究テーマである「ユニバーサルデザインの空旅」を実現する革新的な機内バリアフリートイレの提案」について、JAXAのホームページで公表しました。身体にハンディキャップがある方にとって課題となっていた、空の旅におけるラバトリー（機内トイレ）の問題を解決するソーシャルイノベーションのコンセプトを提案しています。



Innovation Road Map 2050

当社の技術イノベーションセンターおよび各事業部技術部門にそれぞれ配置する研究開発グループは、「Innovation Road Map 2050」にて当社が提供する製品やサービスのあるべき姿を策定しています。このロードマップに従って研究開発や技術開発を実施し、それらに携わる人財の教育についても推進しています。



ジャムコが提供する3つの価値

創業以来の「人と技術」を原動力に、3つの価値提供へコミット

ジャムコグループは、常により良い製品・サービスの提供を追求して改革と変革に挑みながら、人と技術の成長を続け、価値を生み出してきました。

ジャムコグループが提供するさまざまな価値は、「快適移動空間」、「価値ある環境性能」、「安全運航環境」の3つに大きく分けることができます。これらは当社独自技術の結集であり、航空機を基軸とした製造・整備を通じてお客さまとの信頼関係を築いてきました。これからは、人と技術をコア・コンピタンスとして新たな価値を提供し続けることで、お客さまとともに持続的成長を果たしていきます。

ジャムコが提供する3つの価値



快適移動空間

「あんしん、快適」を追求した内装品

当社が製造する航空機用の厨房設備（ギャレー）と化粧室（ラバトリー）は、世界のエアラインが運航する中大型の旅客機の多くに搭載されており、その世界シェアはギャレーで約40%、ラバトリーは約50%となっています（当社調べ）。これらギャレー、ラバトリーなどの航空機内装品を構成する部品は、厳しい耐空性基準を満たす必要があります。例えばその主要構造材料であるハニカムパネルでは、炭素繊維やアラミド繊維といった特殊な素材を使用することで、軽量で難燃性を兼ね備えながら、高い強度と耐久性を実現しています。また、乗客用シートでは、安全性のみならずデザイン、素材、座り心地、使いやすさからギャザー（革シートのシワ）の寄せ方に至るまで、搭乗されるお客さまの快適さを追求し、空の旅を満喫していただける製品を提供しています。

製品の設計・開発においては、耐久性や機能性はもとよりバリアフリーや衛生面にも配慮し、機体メーカーやエアラインからの細かいご要望にも柔軟に対応することで、お客さまへの提供価値の最大化に向けた挑戦を続けています。

ギャレーの世界シェア※

：約**40%**

ラバトリーの世界シェア※

：約**50%**

※ 中大型機：当社調べ



価値ある環境性能

品質管理と独自技術で、環境に優しい航空機を実現

航空機が飛行するために必要不可欠な耐空証明においては、①強度・構造・性能についての基準、②騒音の基準、③発動機の排出物の基準の3つを満たす必要があります。①は航空機の安全性確保、②と③は環境への適合を目的とした基準であり、耐空性を保証することは、安全の確保だけでなく環境保全にも寄与しています。

ジャムコでは、航空宇宙分野で要求される品質マネジメントシステム JIS Q 9100 を取得し、耐空性を保証するための品質管理を徹底しています。

また、航空機に求められる環境性能として、機体の軽量化は燃料消費の低減に寄与し、CO₂排出量削減につながります。従来の航空機の主となる原材料はアルミやスチールなどの金属ですが、これらをより軽量かつ同程度の強度・安全性を持つ炭素繊維複合材料（CFRP）に置き換える動きが広がっています。ジャムコはこのCFRPの加工において、ADP（Advanced Pultrusion）製法による連続成型技術を独自で開発しました。1990年代から着実に納入実績を積み重ね、耐空性基準を満たしながら航空機の軽量化を推進することで、価値ある環境性能を実現しています。

中型旅客機の機体重量

：約**60**トン



機体の50%に
CFRPを適用した場合

：約**48**トン

20%の軽量化

出所：日本化学工業協会



安全運航環境

国内最大の整備専門会社

1955年の創業以来、航空機の部品製造のみならず整備・改造事業においても、中小型機のメンテナンスセンターとして幅広いお客さまのご要望に応じてきました。近年国内のエアラインにおいては、燃料効率の良いリージョナル機クラスの小型旅客機の需要が増えています。これまで蓄積してきた整備・改造の技術を活かし、小型旅客機の分野でも定期整備や改造などの需要に応じられる体制を整えています。

また、防衛省をはじめ、海上保安庁、航空大学校、警察など官公庁の特殊用途の機体では、機体メーカーとの技術提携や独自の技術力を駆使して重装備や特殊任務のための改造なども実施してきました。国内エアラインの旅客機の車輪は離着陸時の安全を支える重要装備品です。当社の車輪整備事業は、国内最大級のホイールオーバーホールセンターを有し、環境に配慮した最新型の設備を導入し、自動化を図りつつ安全運航に貢献しています。こうした実績を技術のさらなる深化に活かすことで、航空業界の安全と発展に寄与しています。

